苺　炭疽病予防対策について（薬剤編）

R6.7　アグリ技研（株）

苺の炭疽菌は2種類（G,c・C,a）とされ、クラウン部に多い物と葉などに多く見られる（葉枯れ）であり育苗期の前半は、比較的にクラウン部で後半になると葉枯れを見ます（温度の差）

1.薬剤の効果について

①効果の高い薬剤（試験データ参照）

薬剤名
ジマンダイセン水和剤
アントラコール顆粒水和剤
セイビアーフロアブル20
デランフロアブル
ベルクート水和剤

②効果の低い薬剤

薬剤名
アミスター20
ストロビー
オーソサイド水和剤
ゲッター水和剤
サンリット水和剤

2.肥料を上手く使用して茎葉根を硬化や根張を充実効果について

①アミクエ

育苗時期は、7～10日置きに1000倍で葉面処理（潅注は500倍）
「有機酸+アミノ酸の効果で根や茎葉の生育を良くします」

②PKゴー

育苗時期全般を通じて2000倍で葉面処理（花芽分化時期は連用も可）
「亜リン酸の効果で茎葉の硬化や静菌作用、花芽分化の時期にも使用可）」

③クドグリーン

育苗時期全般を通じて500倍で葉面処理
「葉色を濃くして光合成作用の強化、苗の充実」

夏場の猛暑や品種関係で、炭疽病は増加気味で上記の薬剤や肥料散布と併用して①水管理②ポット追肥③雨よけ施設④高設育苗　　⑤葉の整理などと合わせて行う様にしましょう。